

住民運動が拓く「人といのちが輝くまち」 総支部からあなたへ181号が伝えるベンチ設置運動

バス停ベンチ設置運動が示す地域自治の力
社民党熊本県連合 代表 今泉克己

県民の皆様、日頃からの温かいご支援に心より感謝申し上げます。先の党県連合定期大会において、私たちは熊本県の社会経済状況と将来像について重要な課題分析と方針を確認いたしました。

現在、熊本県は半導体関連産業の進出など大きな転換期を迎える一方で、格差の拡大や生活の不安定化、地域公共交通の維持困難など、命と暮らしを脅かす様々な課題に直面しています。

こうした中で私たちが掲げるのは、「憲法の『地方自治の本旨』を活かし、住民が主役の真の分権・自治をすすめ、住み慣れたまちで安全・安心・快適に暮らせる『人といのちが輝くまち』をつくる」ことです。

生活の不安定化は市民の政治参加を弱める傾向があります。格差が広がる社会では民主主義の基盤が揺らぎかねません。だからこそ今、地域社会の持続可能な発展のためには、経済成長のみならず、社会的公正と「住民参加・市民参加の強化」が不可欠です。

今回ご紹介する熊本市での「バス停ベンチ設置運動」(裏面に全文転載)は、一人の市民の声から始まり、署名を集め、自治体(熊本

市)を動かし、政策を実現させた「住民運動と議員活動の連携」の素晴らしい成果です。

【現場からの報告】

熊本市総支部「総支部からあなたへ」より
熊本市と「バス停にベンチを」で意見交換会
高齢者や利用者の声を届け、

具体的整備計画が前進!

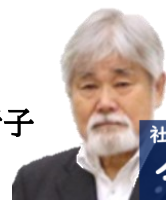
7月22日、党熊本市総支部(中央区党員ら)と熊本市都市整備局との意見交換会が、村上ひろし熊本市議の仲介で行われました。

この運動のきっかけは、ある女性(80歳代)のもとに親友から寄せられた「山伏塚のバス停のベンチがなくなって困っている」という切実な相談でした。自分自身も利用するバス停への設置を願い、市民の手で集めた「バス停ベンチ設置署名」を熊本市都市整備局長へ手渡しました。

動き出した行政と実った市民の思い

この市民運動に応える形で、熊本市でも順次ベンチの設置が進んでいます。声を寄せた女性が利用する「尚綱校前」バス停では、上り線(2025年)に続き、2026年には下り線にもベンチが設置されました。女性は、念願が叶った嬉しさを次のように短歌に詠んでいます。

「運動がようやく実り
バス停に 茶色の長椅子
どかりと置かる」



社民党熊本県連合代表

今泉克己



【解説・県連合方針との結びつき】

移動権の保障と「住民主役」の

自治体づくりへ

1. 誰もが安心して移動できる

「交通権」の保障

社民党県連合は運動方針において、『住まいは人権』であり、移動権もまた基本的人権の一つ。誰もが、いつ、どこでも安心、安全、快適に移動できる交通権を保障する立場から、地域公共交通を守る取り組みを強化することを掲げています。バス路線の維持だけでなく、バス停で待つ高齢者や障害を持つ方々が安全・快適に利用できる環境（ベンチや上屋の設置）を整えることは、まさに「公共サービスの質・水準を確保する」取り組みそのものです。

2. 地域課題の集約と住民運動の創出

方針のなかで確認した「関連自治体議員団・連合推薦議員団と連携し、地域課題の集約と自治体要求の取り組みを強化する」「市民運動に積極的に参加し、地域要求・住民運動の創出に努力する」という姿勢が、村上ひろし市議と地域党員、そして市民の皆様の協力によって具体的な形となりました。

熊本市総支部幹事会が発行する
「総支部からあなたへ181号から
転載▼

【まとめ】

社会民主主義の運動を熊本県内全域へ

今回の熊本市での取り組みは、熊本市以外の各地域（郡部や他市町村）にとっても大変貴重な実践例です。バスや鉄道の減便・廃止が進む中、地域公共交通を守り、利用しやすい環境をつくる運動は、県内すべての自治体共通の課題です。

「困っている」という一人ひとりの声を
聞き漏らさないこと

地域で署名や対話を重ね、
身近な課題を政治の場へ届けること

自治体議員と党組織、市民が手を
取り合って行政の姿勢を変えていくこと

これこそが、民主主義の基盤を草の根から強め、ポピュリズムや全体主義に対抗する確かな力となります。

社民党熊本県連合は、命と暮らし、そして平和を守り抜くため、県内各地で住民の皆様とともに歩み、「人といのちが輝く熊本」の実現に向けて全力で取り組んでまいります。地域での困りごとやご意見を、ぜひお近くの党議員・組織へお寄せください



この日はじめに80歳台の高齢女性が同課課長に意見を述べ、集めた「バス停ベンチ設置要望」を手渡した。この運動のきっかけは、女性の親友から「山伏家のバス停のベンチがなくなっている」と相談されたこと。自分も利用する「尚綱校前」の上り線に2025年、下り線に2026年ベンチが設置。女性は、そのうれしさを短歌にした。

「運動が、ようやく実りバス停に 茶色の長椅子

7月22日、中央区党員らと熊本市都市整備局との意見交換会が、村上ひろし市議の仲介で行われた。中央区支部では、これまで2度同課と設置場所等の意見交換会を実施。また村上ひろし市議市政報告会へ、担当課を招き、バリアフリーマスタープランの説明を受けた。

どかりと置かる」課長と担当者からは、次の説明があった。熊本市は約1900か所あるバス停のうち、2023〜26年度に600か所の設置を目標。今年3月までに、349か所既存200か所新規149か所で設置を終えている。新規の設置にあたっては、①横幅が短い背付きベンチ、②縦幅が短い背なしベンチ、③サポーターベンチなど様々なベンチを工夫。残る251か所のうち180か所については、2028年度末までの設置を目指している。また、民有地で交渉が必要な71か所については、今後交渉を重ねたい」と述べた。



集めた「バス停ベンチ設置署名」を手渡すようす

熊本市と「バス
停にベンチを」
で意見交換会